

しろや！ 広島城



No.65



図1 「夜中測量之図」広島城蔵

いのうただたか 伊能忠敬測量隊、広島に来たるの図

「浦島測量之図」「夜中測量之図」は、幕府の命で全国測量を行った伊能忠敬が、文化3年(1806)に広島藩内の呉地方を測量したときの様子を描いたもので、賀茂郡阿賀村(現在の呉市阿賀町)などの割庄屋をつとめていた宮尾三兵衛が、伊能測量隊の様子を絵師に依頼して描かせたと伝えられています。大正10年(1921)頃、宮尾家に所蔵されていた古文書の中から発見されました。伝来のわかる貴重な資料として、呉市の有形文化財に指定されています。教科書などにも掲載されていますので、ご覧になったことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

あまり知られていませんが、実は、広島城もこれ

とそっくりな絵図を所蔵しています。広島城所蔵のもの(広島城本)は、伝来などは一切不明。宮尾家所蔵のもの(宮尾家本)とは細部まで図様が一致していますが、微妙に違う部分もあります。何度か展示をしたこともありましたが、これまでほとんど存在が知られていない資料なのでした…。

全国を旅した伊能忠敬測量隊ですが、意外なことに測量の様子を描いた絵図は、広島でしか見つかっていません。広島城の「夜中測量之図」【図1】、「浦島測量之図」【次頁 図2】は、その数少ない資料のうちの一つということで、とても貴重なものです。せっかくなので、この機会にじっくりとご紹介したいと思います。



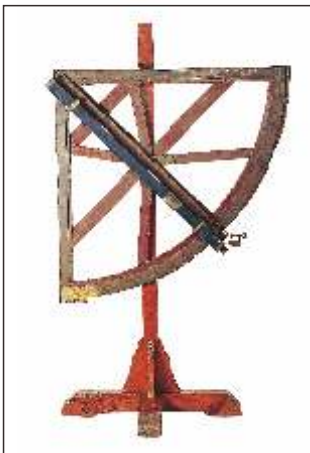
図2 「浦島測量之図」広島城蔵

■「夜中測量之図」【前頁 図1】

紙本著色 一舗 27.5cm×40.8cm

伊能の測量の最大の特徴である、夜間の天体観測の様子を描いたものです。「測天量地」とは、「測量」の語源とされる中国の言葉です。「天を測り、地を量る」—伊能忠敬が行った測量は、まさにこの言葉どおりのものでした。伊能は幕府天文方・高橋至^{たかはしよし}時に弟子入りし、天文学を学んだ人物。日中は地上を測量し、夜は天体を観測してその土地の緯度を決定することで地上測量の誤差の補正が可能となり、精密な地図を生み出すことができたのです。

画面右には、赤い敷物に座った伊能忠敬と思われる人物が描かれています。伊能は、「子午線儀」という道具を用いて星の南中を観測しており、画面中央の人物たちは、「中象限儀」という道具を用いて星の高度を測っています。千葉県香取市の伊能忠敬記念館にのこる、実際に伊能が使用した中



「中象限儀」伊能忠敬記念館蔵

象限儀とよく似ているのがわかります。画面左上、観測者らの目線の先には、5つの連なる星が、また、画面右上方には、鼓形に並んだ星（オリオン座?）が見えています。建物の表には、「伊能勘解由宿」と書かれた宿札が掲げられ、観測場所の周囲には広島藩の三引きの幔幕がめぐらされています。画面右下には、「夜中測量之図」の文字とあわせて、「北極度数」ではじまる文章が記されます。「北極度数」とは、北極星の高度すな

北極度数
四日市辺 三十四度位
但往還筋東西二当り
居申間ハ凡同様之由
御城下モ凡三十四度位
歩合少ノ出入ハ可有之由
△北へ奇（寄カ）候ホド北極へ遠ク
南へ出候ホド近ク相成候由
既ニ薩摩大隅辺ニテハ
三十一度位出羽奥州辺
ニテハ三十六度位之由
△京都三十五度有之由
右測量御役方へ御尋
申候処如是
川尻村より三十四度二歩余

わち緯度のことです。四日市宿（現在の東広島市西条）と城下（広島市内）の緯度は大きく違わず34度位であること、北より南の方が緯度が低いこと、京都の緯度などを測量御役方に尋ね聞いたことが書かれ、最後には川尻村（現在の呉市川尻町）の緯度34度2分余が記されます。測量隊一行が川尻村に入ったのは、文化3年3月8日。その夜は村内の光明寺に宿泊して天体観測を行い、翌日からは呉地方の測量を行ったことがわかっています。

■「浦島測量之図」【図2】

紙本著色 一舗 27.5cm×201.0cm

日中に海辺で測量している様子を描いた横長の画面。たくさんの人物が描き込まれ、測量中のすがたが臨場感たっぷりにあらわされています。描かれた場所は、川尻村から仁方村（現在の呉市仁方町）・阿賀村辺りの海岸線とみられます。

伊能の測量は、文化2年出発の第五次測量から幕府の直轄事業となり、測量先の藩の協力が得られるようになりました。画面右には広島藩主浅野家の家紋・丸に違鷹羽をあらわした大きな船。その



周囲にたくさん描かれた漕船にも、広島藩の旗印・三引きの幟（わらじ）が立てられています。茶釜や草鞋を運ぶたくさんの人々。荷物の入った挟箱（はさみばこ）にも浅野家の家紋が見えるなど、藩を「浦島測量之図」楽しみに荷物を運ぶ人々あげて測量隊のサポートにあたったことがうかがえます。巻末には「文化三丙寅仲夏於広陵図之 境惟成 印印」と制作時期と作者の名前、印章がのこされています。これによると、文化3年の5月に描かれたことがわかり、伊能らが広島を訪れた後二か月ほどで絵が完成したようです。



さて、冒頭でも触れましたが、宮尾家本と広島城本には、違う部分があくつかあります。現状では、宮尾家本は卷子装で、巻頭には「二十八宿去北極度」を載せ、次に「浦島測量之図」、「夜中測量之図」、測量器械類の図と説明、そして最後に広島藩内の測量記録が記されています。広島城本は、現状「浦島測量之図」と「夜中測量之図」はそれぞれ一枚物で、宮尾家本にあるその他の記録類は付属していません。次に大きな違いが料紙です。宮尾家本に比べると、広島城本のほうが目の粗いガサガサした質感の紙を使っていて、高級感では残念ながら劣ります。

図様では、特に墨線で描かれた人物の輪郭線などは、まるで重ねて写したかのようにそっくり同じであるいっぽう、着物の色や柄の彩色はそれぞれ異なります。ほかに、遠景の山々の描き方などにも

相違が見られます。また、筆致（ひっち）に関しては、明らかに宮尾家本のほうが丁寧です。わかりやすいのは建物の線や、幟旗の飾りである鳥毛と三引き模様の描き方です。宮尾家本は均等な太さで直線的に引かれている線が、広島城本では太さが均一ではなく、なんとなくラフな描き方になっています。

ここまで見てみると、広島城の方が下手っぴな絵で、あまり価値がないように感じられるかもしれませんが、そんなことはありません。広島城本には、宮尾家本にはない、結構重要な描き込みが複数あるのです！たとえば、「夜中測量之図」の5つの星。さらに、星の角度を測る中象限儀の目盛りも細かく描かれ、宿札の文字も広島城本では、はっきりと書かれています。「浦島測量之図」の挟箱の家紋も、広島城本にしかあらわされていません。また、絵だけではなく文字についても同様で、広島城本にだけ、制作年と作者の名前が見られます。また「夜中測量之図」の「北極度数」も宮尾家本には見られないもの。このように、広島城本には、今までわかっていなかった情報がたくさん詰まっているのです。

ひょっとすると、広島城本は宮尾家本の下描きあるいはその写しで、宮尾家本は下描きをもとに、発注者へ納めるために制作された完成品という位置づけなのかもしれません。そのため、宮尾家本は、画面構成やモチーフがある程度整理され、上質な紙に丁寧な描き方で描かれているのではないかと考えてみましたが、確証はありません（残念）。

このように、まだまだ謎が多い2つの絵図。広島城では、今後も引き続き調査研究を続けて行きたいと思います！ 続報を気長にお楽しみに…。

（吉田 文）

龍と虎は仲良し？ それともライバルの関係？

右側の絵は蛇の胴体に4本の足、長いひげと大きな角が特徴、想像上の動物「龍」が黒雲の中から現れ、こっちをにらんでいます。左側の絵は竹林の陰で「虎」がぴょんと飛び跳ねている姿が描かれています。このように「龍」と「虎」の絵はよくセットで描かれますが、これにはどういう意味があるのでしょうか？

中国では古くから「龍」と「虎」が方角を司る神として、南の朱雀、北の玄武とともに、東＝青龍、西＝白虎として採り上げられています。この信仰は日本に輸入されていて、その代表例として奈良県明日香村の高松塚古墳の壁画が有名です。

さらに、中国の古典『易経』の注釈書(解説書)の中に「龍吟ずれば雲起り、虎嘯けば風生ず」、「雲は龍に従い、風は虎に従う」ということが書かれています。龍と虎は雲(雨)や風を従えながら、邪気(病気を起こす悪いもの)を払い除けるということで、私たちの暮らしを守る神として崇拝されているのです。病気が蔓延しているこの時期、ぜひとも大活躍をしてもらいたいですね。

また、「龍」は皇帝のシンボルとして、「虎」は強い動物の代表と考えられています。「龍虎相搏つ」という言葉があります。両者は優劣つけがたいライバル同士ということで、雲を伴う龍とそれに対峙する虎という情景が絵



画などでよく扱われているのです。この絵の作者は勝田友溪、名を惇則といいます(生没年不詳)。江戸時代中期ころ、広島藩の御用絵師として活躍したといわれています。山水画を得意としていました。雲間の龍・竹林の虎と定番の描き方をしていますが、両者とも威圧感が感じられません。むしろユーモラスかつ愛嬌がありますね。特に虎は体つきが何だか猫そっくり!? 身体の模様もちょっと渦巻が入っていて変な感じがするなどツッコミどころ満載の絵です。

(山脇 一幸)

勝田友溪筆「龍虎図」双幅 広島城蔵

しろうや
!
広島城

編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話:082-221-7512
FAX:082-221-7519

令和2年9月10日発行

広島城利用案内

開館時間: 9:00~18:00

(12月~2月は9:00~17:00)

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料: 大人370円(280円) 中学生以下無料
高校生相当・シニア(65歳以上)180円(100円)
()内は30名以上の団体料金

休館日: 12月29日~12月31日(臨時休館あり)

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>